高槻市市民公益活動サポートセンターニュース

発行　２００８年（平成20）１月１５日
高槻市市民公益活動サポートセンター
住所　〒569-0056　高槻市城南町 3-1-1
西大冠小学校内
電話　０７２－６７４－３４００
Fax　０７２－６７４－３４０１
e-mail:koueki-suport1504@aurora.ocn.ne.jp　http://www.takatsuki－kouekisuport.com/

「高齢者への生活支援」協働の取り組みの充実に向けて

NPOと行政の「協働のためのテーマ別交流会」…その後

サポートセンターと行政の共催による「協働のためのテーマ別交流会」は、第１回として「高齢者への生活支援」をテーマに、昨年 9 月 28 日と 10 月 22 日に開催しました。
サポートセンターでは関係登録団体に呼びかけ、関連課と話し合いをする中で、問題点を整理し、具体化に向けて骨子をまとめました。
今後これらを実現するための検討を進め、高齢者への支援のための協働の取り組みを充実させていく考えです。

行政の支援と地域の力と

2 回にわたる討議の上、課題の検討を行い、12 月 27 日に課題について次の 3 つにしぼりこみました。

①　高齢者のための生活支援の情報の共有化

「地域包括支援センター」で着手している「生活支援ボランティア」の「マップづくり」に NPO も協力する。

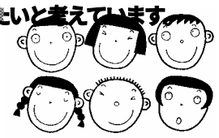
②　高齢者の「ゴミだし」などへの軽度生活支援

行政が行う対応の研究にあわせ、サポートセンターでは市民の関わり方を検討し、より実効性のあるものにしていきたい。

③ 地域でのボランティア活動の促進

行政とサポートセンター共催の「まちづくり塾」の開催方法などの見直しを行う。今後は地域で開催することや地元の NPO などと連携して、ボランティアの人材発掘・育成に努める。

★サポートセンターとしては、これら 3 項目が確実に実施されるように、行政と協働していきたいと考えています。



第 2 回テーマ別交流会
「子育て･教育」で進行中

今回も 2 日間の開催を予定しています。第１日は 11 月 13 日に開催されましたが、サポートセンター登録団体から関連 15 団体 15 人、行政は 9 関連課 11 人の参加がありました。第 2 日は 1 月 21 日に開催されます。
サポートセンターは、第１回交流会と同様に課題の解決

目　　次

1　面・・・・・・・協働のための交流会
「高齢者の生活支援」その後
3　面・・・・・・・市民公益活動の現場から
「森林ボランティア活動」

登録団体　活動の広場

NPO 法人　こだま会

～高齢者が心豊かに暮らせるまちづくり～

平成 14 年設立のまだ若い、しかも仲間が十数名の小さな事業所ですが、くるくる変わる介護保険法の運用に翻弄されながらも、利用者の皆さんと喜怒哀楽をともにして 5 年が過ぎました。

＊モットー

優しく、正しく、そして明るく

＊事業内容

居宅介護支援事業
訪問介護事業
福祉有償移送事業
その他 NPO 活動

＊活動地域

郡家、川西、南平台を中心にした高槻市北西部地域

今後は、介護保険外の生活支援などもっと広範囲の高齢者のための「まちづくり」を目指したいと思っております。いっしょに活動してくださる有志の方々からのご連絡を心待ちにしております。

＊高齢者介護に関するご相談は、
白石（６８６－２６７１）まで。

NPO 法人　ほっと（配食サービス）

私たち真心を込めてお届けします！

毎日の食事が大事なんだよ！それはわかってるよ！
だけどそれが毎日毎日はできないんだよ！

といわれたＮさんの絞り出すような一言がきっかけで、私たちはお年寄りへの配食サービスを手懸けることになりました。平成１８年６月でした。もちろん最初にお弁当をお届けしたのがＮさんです。大変喜んで頂きました。
それから１年半。「ほっと」も、NPO 法人の認証も取り、高槻市からの委託もうけ、多くの方々へ手作りのお弁当をお届けできるようになりました。
でも私たちは
「地域でお住まいで、お食事を作るのが、困難な方々に、地域に住む私たちが真心を込めて作ったお弁当をお届けしよう」
最初に誓い合ったこの言葉を、事あるごとに反芻し、いつも初心に帰って毎日のお弁当を作り、お届けしています。地域の方々の健康維持のため少しでもお役に立てる様に、今後も努力して行きます。

今日も利用者の笑顔にであえるように・・・

お問合わせ：日吉台 3-6-1　Tel/Fax　689-3421

「子どもの文化」ネットワーク

豊かな子ども時代のために

「子どもの文化」ネットワークは、子どもたちが子どもの文化を通して人間として豊かに成長し、地域で生き生きとした子ども時代を過ごせることを目的に設立しました。高槻で子どもの文化に関わる活動をしている１０のグループ・団体で組織され約 2 年半たちます。私たちは、今の時代だからこそ、子どもたちに読書や絵本の世界、音楽や劇場の世界、また創造や原体験を大切にした豊かな表現活動や遊びの世界を味わってもらいたい、親子のコミュニケーションや人々との交流と言った、地域社会の豊かさも広げて行きたいと考え、子どもの文化を育むまちづくりをめざしています。平成 18 年度には、高槻市協働活性化モデル事業を受託し、「おはなし・読書ボランティア講座」を開催しました。子どもネット（通称）は、まず所属する団体間のネットワークの環を大切にし、お互いの情報交換を毎月しています。又、必要に応じて学習会や講演会、イベントなどの開催も考えています。

連絡先事務局　NPO 法人三島子ども文化ステーション　０７２－６８５－２２２４

編集後記

阪神淡路大震災から 13 年。悲しい思い出とともにボランティアという言葉が定着し、その力は行政とは違う形で被災者を支援できることを確認しあった年でもありました。今年も市民活動の前進がありますように。サポートセンターでは行政との意見交換の中でお互いの視野が広くなり、見えてきた問題に、多角的にどう取り組んでいくかが、これからの課題かなと思います。　　トランペット 早暁に聴く 阪神忌　　（衣川）

第 3 回
たかつき
NPO 協働
フェスタ

工夫を凝らした展示ができました。

参画団体 34　参加者約 450 人

12/1 に開催された「たかつき NPO 協働フェスタ」も今回で3回目となりました。
今回もジャンル別で5ブースに分かれての展示になりましたが、各ブースの中で個々の団体の活動の紹介もできるように工夫しました。8回の企画会議と6回の実行委員会を経て本番を迎えました。

今年新しく取り入れられたのは設営ボランティアスタッフ。前日の設営と、当日の後片付け、警備などで活躍しました。
またサポートセンターは初めて事務局を担当しました。

●オープニングは女性 3 人グループ appeal による歌。続いて三松宣久さんの「からくりオルゴール」の演奏。●お昼は「ピアノトリオ」による楽しい曲の数々と「松の会」の民謡。●クロージングはお楽しみ抽選会。数々の豪華景品に盛り上がりました。

楽しくてすごい
「からくりオルゴール」は全部手作り。一日やさしい音色をきかせてもらいました

★展示コーナーは、見てまわるだけではなく、簡単な参加型ワークショップがあったり(育む)、専門家による献立チェック・相談コーナー(食べる)を設けたり、研究開発の製品を紹介したり(住む)、高齢者を体験してみる(助け合う)など、バラエティにとんだ展開をみせました。

雨水トレール
雨水をむだにしない。開発した製品を熱心に紹介しました。

読者の心をつかむ! 情報誌のつくり方

NPO 運営マネジメント パワーアップ講座

サポートセンターでは、毎年独自に各種講座を開催してきました。今年度は大阪府が NPO の運営マネジメントの向上を図る目的で企画した、府・市・中間支援組織の協働事業「パワーアップ講座」の中から、「助成金講座」(すでに盛況のうちに終了)と「情報誌・広報誌の作成講座」に取り組むことになりました。

「読者の心をつかむ!わくわくする情報誌・広報紙の制作入門講座」

●日程と内容　第1日目 (2/2・土) 大阪ボランティア協会出版部の大谷隆氏が 「作成のポイントと企画してラフを作る」
第2日目 (2/9・土) 日本機関紙協会大阪府本部の坂手崇保氏が 「パソコンを駆使した”実践編”」
ぜひご参加ください。

●開催時間はいずれも 14:00～16:30　●会場はいずれも高槻市総合センターC601 (6F) 会議室　●参加費不要

●申し込みは、団体名等を書いて、fax かハガキで 1/26～1/31 にコミュニティ推進課へ

＊詳しくは、チラシおよび市の広報紙(1 月 25 日号)・サポートセンターのホームページをご覧ください。

シリーズ：市民公益活動の現場より　第 9 回　「森林ボランティア活動」

森林整備に市民が参加

林業の低迷により、山が荒れているといわれています。一方で、都市の住民の中に、定年退職後は空気のいい自然の中で山仕事をしたい、子どもの頃遊び親しんだ山のために何かしたいなど、さまざまな思いから森林保全のボランティア活動に携わる人が増えています。二酸化炭素を吸収し、水源を守り、動植物の生息地として、またレクリエーションや癒しの空間として、すべての人に恩恵を与える森林。都市の住民が、山を守る営みにかかわるひとつの形として、森林ボランティアが注目されています。

● 高槻市の山林

高槻市は市域の半分に及ぶ約4500haが森林です。元々は雑木が多く、薪や炭などを生産し都市部に供給していましたが、戦後は、燃料革命などにより需要が減り、利用されなくなった山は、次第に手が加えられなくなりました。

一方、建材用の杉や檜が植えられ人工林が全体の50%を超えるようになりましたが、林業従事者の減少・高齢化と、外国産の安い木材の輸入で木材価格が低迷し採算がとれなくなったため、林業施業が行われない人工林が少しずつ増加しています。

● 楊梅山国有林での森林ボランティア

高槻市は、市民の森林保全への理解を促進することを目的として、2001 年、森林ボランティアを公募、これに応じた市民たちのグループが母体となって、翌年9月に**高槻里山ネットワーク**が発足しました。

当初は、農林振興室の指導を受けながら施業ボランティアを行ってきましたが、2004 年4月、市の推薦と支援により、市北部に位置する楊梅山国有林を活動の拠点として利用する協定を、近畿中国森林管理局との間で締結しました。人と自然が親しむ「共生の森づくり」を目標として、ほぼ月2回、定期的に施業しています。松くい虫による被害を受けたアカマツなどの枯損木や倒木を処理したり、散策路や広場を整備。里山としての景観形成を考え、楊梅(ヤマモモ)の森・ツツジの森など林層に応じた森づくりや、アカマツ林の再生などに取り組んでいます。また、市内の小学校の総合学習に協力するなど、子どもたちの森林体験の支援にも力を入れています。

会員数は約50名で、楊梅山の他、梶原、上牧の民有竹林も、所有者の好意をうけて、整備を進めています。

散策路に階段を設置

● 阿武山で里山の再生を目指す

市内阿武山中腹の児童施設大阪府衛生会所有の雑木林で、子どもたちの遊び場づくりを主に里山の復活に取り組んでいるのは、**NPO 法人日本森林ボランティア協会**です。同協会は、1997 年に任意団体として立ち上げ、「月に一度は山仕事」をキャッチフレーズに、毎週末、大阪府を中心とした十数か所のフィールドで間伐や下刈りなどの森林整備活動を実施している団体です。大阪市内に本部を置き、会員数は約 300 名です。設立当初から人材育成に力を入れ、森林ボランティアリーダーを養成するための講座「森林大学」は、現在 21 期目を開講中です。

刈払機での作業。繰り返し再生する竹や笹は毎年伐採が必要です。

阿武山での整備活動は、地元高槻でも活動したいとの思いを抱いていた市内在住の会員さんと、子どもたちの遊び場兼自然体験学習の場として山を整備したいと考えていた所有者との出会いから始まりました。笹や蔓に覆われ竹が侵入、大きくなりすぎた雑木がいたるところにみられる典型的な里山の放置林でしたが、2002年1月の施業開始から丸6年、およそ月2回のペースで、除間伐や下草刈りなどの作業を重ね、少しずつ整備が進んできました。

コナラや小鳥・動物達が好む実のなる樹木、種類が多い山桜の林など、現場の植生を活かした里山再現に取組み中です。

●森林所有者とボランティアをつなぐ

2004 年度より、高槻市と大阪府森林組合の共催で、「**市民林業士**養成講座」が始まりました。森林管理の専門知識や技術を身につけたボランティアを養成することで、森林所有者の信頼を得、市民ボランティアが手入れ不足の森林の整備にかかわっていく仕組みをつくることが狙いです。

翌年 1 月には、同講座の修了生が中心になって **NPO 法人森のプラットフォーム高槻**を設立、所有者からの整備依頼に、より組織的に対応していくことになりました。会員数は約 80 名。月2～4 回程度、依頼に応えて、間伐・枝打ち・草刈りなどの山林整備を実施するとともに、整備により発生した材の有効活用にも力を入れています。地元の木材を使うことが林業を支え、ひいては山を守ることにつながるという考えから、薪・杭・クラフト材料などに加工・販売する他、ベンチなどの木製品を製作しています。

人工林での間伐。手鋸で作業。間伐する木にテープで印がつけられています。

● 都市と山村・森林の掛け橋に

市民林業士による森林整備の面積は、2006年度の実績で約5ha。高槻市でプロの林業従事者が年間に施業している面積と比較すると3～4%程度ですが、市民が直接山に入ることによって、森林環境と林業に対する理解が広がる効果が期待されています。都市の住民と山村・森林との架け橋となり、林業の大切さ、山を守る大切さを広く伝えていく役割も、森林ボランティアに期待されています。

● 共通する想い

ここに紹介した三つの団体、設立の経緯や活動のフィールドは異なりますが、山仕事で汗を流すことが楽しいという気持ちや、知識と技術を身に付けて山や森を大切に扱っていこうとする姿勢、森林所有者や管理者との関係を大切にしてその意向を尊重して活動していること、活動を通じて社会に貢献したいという思いは、共通しているように思われました。

■ NPO法人
日本森林ボランティア協会
06-6376-8255
■ 高槻里山ネットワーク
072-674-5362
■ NPO法人
森のプラットフォーム高槻
072-698-1121